

**オオアカゲラ** キツツキ目キツツキ科  
*Dendrocopos leucotos* (Bechstein, 1803)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



雌(左)と雄(右)広島市東区 2006.2.23/撮影：原 竜也

■**選定理由**：個体数が少ない。営巣木となる大木が少なくなったことも減少した原因と考えられる。

■**特徴**：全長28 cm程度、胸に黒色の縦斑があり雄の頭上は赤色。上尾筒は白色。餌は樹皮下の甲虫目の幼虫。キョツ、キョツと鳴く。県内では標高約700 m以上の山地の広葉樹の自然林に留鳥として生息する。鳴き声とドラミングのみでは同所的にすむアカゲラとの見分けが困難なこともあって、記録は少なく、繁殖状況はよくわかっていない。

■**分布** 県内：八頭町から南部町までの山地。県外：奄美大島から北海道まで。国外では台湾、朝鮮半島、ロシアカムチャツカ、沿海州、シベリア南部からフィンランド付近まで(留鳥)。

■**保護上の留意点**：営巣木となる大木の保護が重要。奥山の造林不成績地の自然林への再生も望まれる。生息実態調査が必要。

■**文献**：—

執筆：土居克夫

**ヤイロチョウ** スズメ目ヤイロチョウ科  
*Pitta brachyura* (Linnaeus, 1766)

鳥取県：絶滅危惧I類(CR+EN)

環境省：絶滅危惧IB類(EN)



広島県内/撮影：保井 浩

■**選定理由**：個体数が少ない。

■**特徴**：全長18 cm、頭上は黒と茶褐色、背は緑色、腹の中央部と下尾筒は赤色。日本には夏鳥として5月中旬頃に飛来し、山地の溪流沿いのよく繁った常緑広葉樹林や落葉広葉樹林にすむ。ホヘンホヘンと2声ずつ鳴く。餌はミミズ等。繁殖期は6-7月。県内では春から夏にかけて各地の山地や山間部で観察例があるが情報は少なく、繁殖は未確認。

■**分布** 県内：1990年代以降で記録のあるのは、鳥取市、八頭町、若桜町、湯梨浜町、三朝町、大山町、伯耆町、日南町。県外：四国、九州、本州中部以西。国外では台湾、中国南部、フィリピンなどで夏鳥、インドからインドシナ半島、マレー半島、インドネシアで越冬または留鳥。

■**保護上の留意点**：山地や溪流沿いの森林の保護・保全が重要。県内での繁殖は確認されていない。生息実態調査が必要。

■**特記事項**：「種の保存法」規制対象種(国内希少野生動物)。

■**文献**：7.

執筆：土居克夫

**コシアカツバメ** スズメ目ツバメ科  
*Hirundo daurica* Linnaeus, 1771

鳥取県：絶滅危惧II類(VU)

環境省：—



南部町法勝寺庁舎 2008.5.27/撮影：桐原佳介

■**選定理由**：営巣地が限定されており、営巣数も年々減少している。

■**特徴**：全長約20 cm。日本産ツバメ類中最大種。上面は青い光沢がある黒色で、顔から腹にかけては淡い橙色で黒褐色の細い縦斑が密にある。腰が橙色で、飛翔時によく目立つ。ツバメよりも尾が長い。飛翔時は羽ばたきが遅く、滑空を交えることが多い。コンクリート製建造物の軒下などに、泥を固めてとっくり形の巣を作る。

■**分布** 県内：県内各地で記録があるが、繁殖が確認されている場所は少ない。南部町では、緑水園の建物に毎年数番いが営巣していたが、近年、建物の改修工事で営巣しなくなった。県外：夏鳥として全国各地に飛来し繁殖する。国外ではロシア南部から東南アジア、インド、アフリカ中部などに生息。

■**保護上の留意点**：営巣する建物を改修する場合には、壁面構造を営巣しやすくする配慮が重要。営巣地の周辺環境の保全もあわせて必要。

■**文献**：—

執筆：桐原佳介

## ビンズイ スズメ目セキレイ科

*Anthus hodgsoni* Richmond, 1907

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



1994.2.6/撮影：栗原築波

■**選定理由**：鳥取県は本州での繁殖地の西限域にあたる。  
 ■**特徴**：全長約15 cm。背面はオリーブ緑色、腹面は白色で、全身に黒褐色の斑紋をおびる。尾を上下に振りながら地上を歩き、餌をとる。おもに本州中部以北で繁殖し、西日本での繁殖は局地的。繁殖期には山地の明るい林や林縁、高山帯の低木林や岩場などにすみ、オスは複雑な声でさえずる。冬季には暖地に移動し、農耕地や海岸、市街地の公園などでも観察される。

■**分布** 県内：大山では夏季の記録が多く、繁殖確認例もある。その他、氷ノ山や扇ノ山で夏季の記録がある。冬季は県内各地の低地で観察される。県外：北海道・本州・四国・九州・南西諸島（繁殖は中部地方以北と西日本の高山域）；ユーラシア大陸東部。

■**保護上の留意点**：大山をはじめとする県内高標高地での繁殖状況を調査することが望まれる。

■**文献**：8, 27.

執筆者：一澤 圭

## サンショウクイ スズメ目サンショウクイ科

*Pericrocotus divaricatus* (Raffles, 1822)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



西伯郡南部町 2010.7.21/撮影：桐原佳介

■**選定理由**：広葉樹の高木が繁殖に必要であるが、そうした繁殖環境の減少で個体数が少なくなりつつある。

■**特徴**：モズ大だが尾が長くスマートに見える。上面灰青色で下面は白い。夏鳥で、4月末から5月はじめに南方より渡来、低山地の林で繁殖する。コナラなどの広葉樹の林に多く、ヒリヒリッ、ヒリヒリッと鳴きながら波状に飛行するときには気付きやすいが、止まっている場合には分かりにくい。

■**分布** 県内：全域。県外：本州、四国で夏鳥、東南アジアで越冬。

■**保護上の留意点**：捕獲、飼育例は聞かないが、越冬地の東南アジアより繁殖地である日本の広葉樹林の伐採、宅地化等の開発を考慮する。ナラ枯れ防止等の生息環境の維持も必要である。

■**文献**：—

執筆者：國本洗紀

## カヤクグリ スズメ目イワヒバリ科

*Prunella rubida* (Temminck & Schlegel, 1848)

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



1997.1.26/撮影：栗原築波

■**選定理由**：本州での繁殖の南限地。繁殖地も限定される。

■**特徴**：全長約14 cmでスズメよりやや小さい。全身暗褐色の地味な色彩で雌雄同色。夏季に亜高山から高山帯のハイマツ群落などの低木帯で繁殖し、秋から冬季にかけては低地の灌木帯や沢沿いの藪に移動する。常に藪の中を移動しており見つけにくい、繁殖期にはチリチリ、またはツリリと細く高い声でさえずることでその存在を確認できる。もともと県内では高山の山頂部付近にごくわずかに生息するのみであったが、扇ノ山山頂では2005年6月を最後としてその存在が確認できておらず、同地の繁殖地の消滅が懸念される。

■**分布** 県内：扇ノ山、氷ノ山、三室山および大山の山頂付近の低木帯で繁殖確認の記録がある。県外：北海道・本州・四国・九州（主要繁殖地は中部地方以北や四国の亜高山帯以上）。日本固有種。

■**保護上の留意点**：キャラボク群落等、山頂部低木帯の保護が重要。

■**文献**：21, 47.

執筆者：下田康生



**コマドリ** スズメ目ツグミ科  
*Erithacus akahige* (Temminck, 1835)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



群馬県／撮影：保井 浩

- 選定理由**：県内の繁殖地がきわめて限定される。
- 特徴**：全長約14 cmでスズメよりやや小さい。雄は頭部と胸は赤橙褐色、腹部は黒灰色。雌は雄より全体に色が淡い。亜高山のササのある針葉樹林・針広混交林で繁殖する。県内では、毎年4月中下旬ごろに繁殖地へ移動中の個体の「ヒン、カラララ・・・」とよく響く声で鳴くさえずりが低山帯でも確認できる。秋季の県内での確認例はごく少なく南下の経路は不明。県内では数カ所の高山の渓谷源流部で夏季の記録があり、ごく少数の個体が繁殖しているものと思われる。
- 分布** 県内：氷ノ山、那岐山および大山山系の渓谷源流部で繁殖している可能性が高い。県外：北海道、本州、四国の亜高山帯、サハリンなどで夏鳥、越冬地は中国南部。
- 保護上の留意点**：繁殖地の正確な把握と立ち入り規制が必要と思われる。
- 文献**：47.

執筆：下田康生

**コルリ** スズメ目ツグミ科  
*Luscinia cyane* (Pallas, 1776)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



雄 2000.4.29／撮影：栗原築波

- 選定理由**：県内のブナ林帯で繁殖するが、個体数は少ない。
- 特徴**：全長約14 cmでスズメよりやや小さい。雄は上面が暗青色、下面は純白。雌はオリーブ褐色で腹部は白っぽい。夏季に山地の落葉広葉樹林で繁殖する。林床で採食しめったに藪の上に出ない。さえずりは「チッ、カラララ・・・」でコマドリによく似るが本種はチッ、チッ、チッという前奏を伴う。また、さえずりの音色はコマドリが常に同一であるのに対し、本種はさまざまな変奏となる。県内の生息環境としては、標高1000 m付近のササ藪のあるブナ林帯がその中心である。4月下旬に県内各地の平地で渡りの初陣が確認されている。秋の渡去時期は不明。
- 分布** 県内：扇ノ山、氷ノ山等の東部山地、大山周辺等、全県のブナ林帯。県外：おもに中部地方以北の本州・北海道；極東ロシア、朝鮮半島で夏鳥。越冬地は中国南部～東南アジア。
- 保護上の留意点**：ブナ林の保護が重要。
- 文献**：22, 47.

執筆：下田康生

**ルリビタキ** スズメ目ツグミ科  
*Tarsiger cyanurus* (Pallas, 1773)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



雄 尾道市御調町 2011.1.29／撮影：原 竜也

- 選定理由**：県内のごく一部の山地で繁殖の可能性があるが情報不足。
- 特徴**：全長約14 cm。雄は上面が青色、下面は白色、脇はオレンジ色で非常に美しい。雌は上面がオリーブ褐色で下面は白色、脇はオレンジ色。亜高山帯の針葉樹林、針広混交林で繁殖する。雄は樹上で「ピョロロ、ピョロロ」とさえずる。地鳴きはジョウビタキに似た「ヒッヒッ、クックッ」。冬季には個体数はあまり多くはないが県内の低山帯にも飛来し、地面に降りて採食する姿が見られる。県内では氷ノ山の山頂部で複数年にわたって7月にさえずりが確認されている。
- 分布** 県内：氷ノ山の山頂部で繁殖している可能性がある。県外：おもに四国と中部地方以北の本州と北海道の亜高山帯で繁殖。氷ノ山以外の本州南部では、大台ヶ原で繁殖の記録がある。西日本低地では冬鳥；ロシア東部、中国北部で繁殖、中国南部で越冬。
- 保護上の留意点**：繁殖についての調査が望まれる。
- 文献**：47.

執筆：下田康生



**トラツグミ** スズメ目ツグミ科  
*Zoothera dauma* (Latham, 1790)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



西伯郡南部町 2008.2.25/撮影：桐原佳介

■選定理由：県内に周年生息するが、個体数が以前に比べて減少。

■特徴：全長約30 cmでドバトよりやや小さい。頭部と上面は黄褐色で黒褐色の三日月斑があり、下面は白く黒褐色の三日月斑がある。雌雄ほぼ同色。留鳥または漂鳥として低山から亜高山の森林に生息し、藪のあるうす暗い地面でミミズを好んで捕食する。夜間や曇りの日の日中に「ヒー、ヒー」と寂しげな声でさえずる。冬季は市街地の公園や庭に表れて庭木の実やミミズを探すこともある。

■分布 県内：各地。繁殖期には平地・低山での確認例は少なく、確認例のほとんどは落葉樹林帯でのものである。冬季は平地や里山での確認例が多い。県外：北海道（夏鳥）、本州（北部では夏鳥、南西部では留鳥・漂鳥）、四国、九州；朝鮮半島、ロシア極東（夏鳥）、中国南部（冬鳥）。

■保護上の留意点：もともと繁殖の詳細情報の少ない鳥であり、生息数の変化には注意が必要。

■文献：—

執筆者：下田康生

**マミジロ** スズメ目ツグミ科  
*Turdus sibiricus* Pallas, 1776

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



2001.5.13/撮影：栗原築波

■選定理由：県内の山地で繁殖していると考えられるが、個体数が少ない。

■特徴：全長約23 cmのムクドリ大の鳥。雄は全身が黒く、白い眉斑がある。雌は上面がオリーブ褐色で白い眉斑があり、下面は淡褐色。

夏季におもに本州中部以北の落葉広葉樹林帯で繁殖し、冬季は中国南部・東南アジアに渡る。おもに森林の下層部や藪の中で行動・採食するが、雄は樹上でさえずる時にその姿を確認することができる。さえずりは「キョロン、チー」という短い声を繰り返す。県内の繁殖地はブナ林帯の上部の標高1000 m以上の所が多い。

■分布 県内：扇ノ山、氷ノ山、那岐山および大山のブナ林帯上部で毎年繁殖期に確認されている。県外：北海道、本州、サハリン、ロシアシベリア東部で夏鳥、東南アジア、スマトラ、ジャワで越冬。

■保護上の留意点：ブナ林の保護が重要。

■文献：23.

執筆者：下田康生

**メボソムシクイ** スズメ目ウグイス科  
*Phylloscopus borealis* (Blasius, 1858)

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



米子水鳥公園 1999.10.19/撮影：桐原佳介

■選定理由：本州における繁殖の西限と考えられる。県内の繁殖確認例が減少している。

■特徴：全長約13 cmでメジロよりやや大きい。上面は緑褐色、眉斑は黄白色で長く明瞭、下面は灰褐色。雌雄同色。夏季におもに落葉広葉樹林から亜高山帯樹林にかけて渡来し、林内低層で活動する。高木の林内よりも稜線近くの低木帯に多い傾向がある。さえずりは「チョリ、チョリ、チョリ、チョリ」と四声で尻上がりに大きくなる。県内の繁殖地は高山の標高1200 m以上の所が多い。扇ノ山では2005年6月を最後としてその存在が確認できておらず、同地の繁殖地の消滅が懸念される。

■分布 県内：扇ノ山、氷ノ山、那岐山、沖ノ山、三室山、三国山、毛無山（江府町）および大山山系のブナ林帯上部や風衛低木帯で繁殖期に確認。県外：北海道、本州（北部で夏鳥）。ユーラシア大陸北部、サハリン、アラスカ西部で夏鳥、台湾、東南アジア、インドネシアで越冬。

■保護上の留意点：ブナ林や高山山頂部の保護が重要。

■文献：21, 47.

執筆者：下田康生



**エゾムシクイ** スズメ目ウグイス科  
*Phylloscopus borealoides* Portenko, 1950

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



鳥根県美保関 2001.4.24/撮影：桐原佳介

■**選定理由**：県内山地で局所的に繁殖の可能性があり本州での西限域に当たるが、近年は夏季の生息記録はない。

■**特徴**：体長12 cmほど、上面は緑色味を帯びた茶褐色で、のどから下尾筒にかけてと眉斑は白く、野外で他のムシクイ類と見分けること困難だが、ヒーツーチーと繰り返す、高く細いさえずりで区別できる。おもに北海道や本州中部以北、四国の亜高山帯の落葉広葉樹林や針広混交林に夏鳥として渡来する。谷間に近い急斜面のよく茂った樹林を好む。

■**分布** 県内：夏季に氷ノ山、三室山で記録がある。春の渡来期には、県下の海岸部の松林などで記録される。県外：北海道、本州中部以北、紀伊半島と四国の一部、サハリンで繁殖。中国東北部、東南アジアで越冬。

■**保護上の留意点**：県下山岳地帯上部の自然林を保護し、生息環境を保全するとともに、夏季の生息実態調査が必要。

■**文献**：28.

執筆：岡垣大志

**キクイタダキ** スズメ目ウグイス科  
*Regulus regulus* (Linnaeus, 1758)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



西伯郡大山町 2006.3.6/撮影：田中一郎

■**選定理由**：冬季に観察されるが数は少ない。松林等の減少で個体数が減っている。

■**特徴**：全長10 cmの小型の鳥。上面はオリーブ褐色、頭頂は黄色で雄には朱色の斑紋がある。留鳥または漂鳥として本州中部以北と北海道の亜高山帯に生息し、針葉樹林や針広混交林で6-8月に繁殖。針葉樹の樹冠部を渡り歩いてクモや昆虫を捕食する。冬季は低地に移動あるいは南下し、日本各地でみられる。県内では冬季に各地のおもに針葉樹林で記録されるが、夏季の記録もある。大山などで繁殖の可能性がないとはいえない。

■**分布** 県内：冬鳥として各地で観察される。県外：北海道、本州中部以北で繁殖、全国各地で越冬；ヨーロッパからロシア沿海州までの西ユーラシアで繁殖。冬季はそれぞれのやや南方に移動。

■**保護上の留意点**：里山や山地の森林の保護。繁殖の可能性については生息実態調査が必要。

■**文献**：—

執筆：土居克夫

**セッカ** スズメ目ウグイス科  
*Cisticola juncidis* (Rafinesque, 1810)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



米子水鳥公園 2008.5.18/撮影：桐原佳介

■**選定理由**：繁殖に必要な草原環境の減少が懸念される。

■**特徴**：全長約12 cm。背面は黄褐色に黒の縦斑で、腹面は淡黄褐色。尾は黒褐色、下面には黒と白の縞模様がある。本州以南の低地から山地の草原で繁殖する。飛びながらヒツヒツヒツヒツ…と続け、下降しながらチャッチャツ、チャッチャツ、…と鳴くのが特徴的。草の間で昆虫やクモをとらえる。鳥取県では4-8月に記録が多いが、冬にも観察されている。

■**分布** 県内：県内各地で観察されるが、とくに天神川や加勢蛇川の河口、米子水鳥公園で記録が多く、これらは重要な繁殖地と思われる。その他では小鴨川(倉吉市)、賀露海岸(鳥取市)などで観察例がある。県外：本州以南；東南アジア、インド、アフリカ、ヨーロッパ南部など。

■**保護上の留意点**：繁殖地となるヨシ原や河川敷草地などを保全するとともに、草刈等の管理を行なう際は繁殖期を避けるなどの配慮が必要である。

■**文献**：19.

執筆：一澤 圭

## サンコウチョウ スズメ目カササギヒタキ科

*Terpsiphone atrocaudata* (Eyton, 1839)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



雄 西伯郡南部町(会見町) 2009.6.1/撮影:桐原佳介

- 選定理由：県内の限られた場所で繁殖。個体数に減少傾向。
- 特徴：全長、雄45 cm、雌17 cm程度。くちばしと目の周りは淡青色、雄の上面は紫褐色、中央尾羽は長く伸びる。雌の上面は褐色みが強く、尾は長くない。フィーチーフィー（これがツキヒーホシ“月日星”と聞こえる）ホイホイホイと聞こえる特徴的なさえずりで存在を確認しやすい。県内では夏鳥として里山や山地で5-8月頃に繁殖するが、個体数は少ない。谷ぞいのよく繁った林を好み、スギ植林地でも遭遇する。地上1.5 m以上の高さの樹上の枝の分かれの基部に営巣。飛行中の昆虫を捕食する。
- 分布 県内：各地。県外：北海道をのぞく全国各地に夏鳥として渡来し繁殖する。東南アジア、中国南部等で越冬する。
- 保護上の留意点：里山や山地のスギ林や広葉樹林の保護・保全が重要。
- 文献：—

執筆：土居克夫

## ゴジュウカラ スズメ目ゴジュウカラ科

*Sitta europaea* Linnaeus, 1758

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



大山川床 2007.4.21/撮影:千村隆司

- 選定理由：森林開発等による繁殖適地の減少が懸念される。
- 特徴：全長約14 cm。背面は青灰色で腹面は白色、脇は橙色。顔には黒い過眼線が目立つ。木の幹にたてにとまり、縦横無尽に走り回って昆虫や木の実などを食べる。頭を下にして幹を降りたり、横枝の下側を歩いたりできるのも特徴的。山地の落葉広葉樹林にすみ、樹洞に営巣する。
- 分布 県内：大山や水ノ山、扇ノ山での記録が多く、その他では船通山、三徳山、安蔵森林公園（鳥取市）、八東ふるりの森（八頭町）など、県内各地の山地林で観察例がある。県外：北海道、本州、四国、九州；ユーラシア大陸に広く分布。
- 保護上の留意点：営巣に樹洞を必要とするため、樹洞ができるような大木やその後継となる樹木が健全に育つ落葉広葉樹林の保全が必要である。それとともに、県内での繁殖状況の調査が望まれる。
- 文献：9, 20, 48.

執筆：一澤 圭

## ホオアカ スズメ目ホオジロ科

*Emberiza fucata* (Pallas, 1776)

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



米子市青木 2007.4.14/撮影:原 竜也

- 選定理由：鳥取県内は、1998年以降繁殖の確認がない。
- 特徴：ホオジロと同大で色彩は似るが、雄は頬が赤褐色で、胸に黒と茶褐色の帯がある点で異なる。さえずりもホオジロに似るが、抑揚が少なくテンポが早い。地鳴きはホオジロのチッチの2声に対しチッの1声である。明るい草原の藪や低木に営巣し、冬期は南下して河原や水田などの草地に単独ですぐす。
- 分布 県内：1990年代に大山で繁殖の記録があり、1969年以前には大山や犬狹峠の草原で営巣していた。県外：おもに北海道、本州中部以北で繁殖する。本州中以南、四国、九州では兵庫県の鉢伏山や山口県の秋吉台など局所的に繁殖している。
- 保護上の留意点：県内の繁殖地を確認し、その環境を維持する必要がある。
- 文献：—

執筆：國本洗紀



**クロジ** スズメ目ホオジロ科  
*Emberiza variabilis* Temminck, 1835

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



雄 西伯郡南部町鳴部 2009.1.14/撮影：桐原佳介

■**選定理由**：国内における繁殖の南限と考えられる。  
■**特徴**：全長約17 cmでスズメよりやや大きい。雄は全体に灰黒色で上面には黒褐色の縦斑がある。雌は全体に茶褐色で上面の縦斑も濃茶褐色。留鳥または漂鳥であり、夏季におもに本州中部以北の落葉広葉樹林・針葉樹林で繁殖する。林床のササ藪の中がおもな活動範囲であり林冠に出ることはほとんどない。さえずりは「ホーイ、チョイ、チョイ」。冬季は西日本や平地に移動する。県内では繁殖期に標高1000 m以上のブナ林帯上部で観察例が多数ある。また営巣の確認例も数例あり、恒常的に繁殖していると見てよい。

■**分布** 県内：扇ノ山、氷ノ山、東山、くらます山（若桜町）、沖ノ山、三国山、毛無山（江府町）および大山山系のブナ林帯上部で繁殖。県外：日本各地（冬鳥としては琉球列島まで）；ロシア（カムチャッカ半島、千島列島、サハリン）。

■**保護上の留意点**：ブナ林の保護が重要。

■**文献**：25, 47.

執筆：下田康生

**ベニヒワ** スズメ目アトリ科  
*Carduelis flammea* (Linnaeus, 1758)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



米子水鳥公園 2009.2.22/撮影：桐原佳介

■**選定理由**：冬鳥として渡来する南限に近く、1970年代より渡来数の減少が大きい。近年稀で集団の個体数も少なくなっている。

■**特徴**：スズメより小型で、額の赤色が特徴的である。背は灰褐色に縦斑がはいり、雄は胸や腰が少し赤みを帯びる。群れて移動し、種子を採餌するが、松林等でよく見られる。毎年来ることは少なく、隔年性をもっていた。警戒心が弱いところから、北陸地方と同様にヌカと呼んで馬鹿にしていた。鳴声はジジッとよい声でない。

■**分布** 県内：県内全域分布。県外：北海道、本州、九州。

■**保護上の留意点**：可愛いので捕獲、飼育されていた時もあったが、最近では聞かない。渡来時の餌場や林などの生息環境を保全しておいてやる必要がある。

■**文献**：—

執筆：國本洗紀

**ホシガラス** スズメ目カラス科  
*Nucifraga caryocatactes* (Linnaeus, 1758)

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



大山町豪円山 2010.10.12/撮影：桐原佳介

■**選定理由**：鳥取県は本州での分布西限域にあたり、個体数がごく少ない。  
■**特徴**：全長約35 cm。黒褐色の地に楕円形の大きな白斑を密にあしらう。下尾筒と尾の先端は白色。亜高山帯の針葉樹林を中心に生活し、木の実や針葉樹の種子、昆虫などを食べ、山小屋のゴミをあさることもある。

■**分布** 県内：山地上部のキャラボク林やブナ林などで観察されるが、最近10年間の記録は大山周辺に限られる。それ以前では、道後山、毛無山、扇ノ山、高山（鳥取市）、東山（若桜町）、氷ノ山など。過去には大山での繁殖報告があるが、近年での状況は不明。県外：本州中部以北の亜高山帯や高山帯に通年生息するほか、中国・四国・九州の各地方でごく局所的に分布；ユーラシア大陸の亜高山帯や高山帯に広く分布。

■**保護上の留意点**：山地上部の自然林を保全するとともに、県内での生息および繁殖状況の調査が望まれる。

■**文献**：29, 52.

執筆：一澤 圭

## ■参考文献 鳥類

- 〈書籍略称〉  
鳥取県のすぐれた自然 (動物) = 江原昭三・鶴崎展巨 (編)  
(1993) 鳥取県のすぐれた自然 (動物編) 鳥取県衛生環境部  
自然保護課発行 (鳥取市) 327 pp.  
レッドデータブックとっとり (動物) = 鳥取県自然環境調査研  
究会 動物調査部会 (編) (2002) レッドデータブックとっ  
とり 鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物. 動物編. 鳥取  
県生活環境部環境政策課, 214 pp.
1. アジア太平洋地域渡り性水鳥保全委員会 (2005) 日  
本・韓国合同トモエガモカウント調査 (2004).  
<http://www.jawgp.org/onet/anafo602.htm>
  2. 江田真毅・井上貴央 (2010) 鳥骨製骨角器に関する  
動物考古学的研究. pp. 144-148. In: 鳥取県埋蔵文  
化財センター調査報告書32『青谷上寺地遺跡出土品  
調査研究報告5骨角器 (1)』. 鳥取県埋蔵文化財セン  
ター.
  3. 細谷賢明 (1993) オオハクチョウ. pp. 26-27. In:  
鳥取県のすぐれた自然 (動物).
  4. 細谷賢明 (1993) トモエガモ. pp. 34-35. In: 鳥取  
県のすぐれた自然 (動物).
  5. 細谷賢明 (1993) シノリガモ. pp. 36-37. In: 鳥取  
県のすぐれた自然 (動物).
  6. 細谷賢明 (1993) ブッポウソウ. pp. 52-53. In: 鳥  
取県のすぐれた自然 (動物).
  7. 細谷賢明 (1993) ヤイロチョウ. pp. 54-55. In: 鳥  
取県のすぐれた自然 (動物).
  8. 細谷賢明 (1993) ビンズイ. pp. 56-57. In: 鳥取  
県のすぐれた自然 (動物).
  9. 細谷賢明 (1993) ゴジュウカラ. pp. 68-69. In: 鳥  
取県のすぐれた自然 (動物).
  10. 細谷賢明 (2002) トモエガモ. p. 44. In: レッドデー  
タブックとっとり (動物).
  11. 細谷賢明 (2002) イカルチドリ. p. 55. In: レッドデー  
タブックとっとり (動物).
  12. 細谷賢明 (2002) タゲリ. p. 56. In: レッドデー  
タブックとっとり (動物).
  13. 井上貴央 (1986) 目久美遺跡より検出された動物遺  
存体について. pp. 129-138. In: 加茂川改良工事に  
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書.
  14. 神谷 要・土居克夫 (1998) 中海・宍道湖周辺で行  
ったマガン日没前後の観察結果. ホシザキグリーン財団  
研究報, 2: 275-281.
  15. 神谷 要・森 茂晃 (2000) 宍道湖において峙をと  
るマガンの調査報告, 4: 95-104.
  16. 環境庁自然保護局野生生物課 (編) (1996) 「猛禽類  
保護の進め方 (特にイヌワシ, クマタカ, オオタカに  
ついて)」財団法人日本鳥類保護連盟, 106 pp.
  17. 片岡智徳 (2002) クロサギ. p. 38. In: レッドデー  
タブックとっとり (動物).
  18. 片岡智徳 (2002) ノスリ. p. 50. In: レッドデー  
タブックとっとり (動物).
  19. 片岡智徳 (2002) セッカ. p. 73. In: レッドデー  
タブックとっとり (動物).
  20. 片岡智徳 (2002) ゴジュウカラ. p. 74. In: レッドデー  
タブックとっとり (動物).
  21. 小林一彦 (1993) カヤクグリ. pp. 58-59. In: 鳥取  
県のすぐれた自然 (動物).
  22. 小林一彦 (1993) コルリ. pp. 60-61. In: 鳥取  
県のすぐれた自然 (動物).
  23. 小林一彦 (1993) マミジロ. pp. 62-63. In: 鳥取  
県のすぐれた自然 (動物).
  24. 小林一彦 (1993) メボソムシクイ. pp. 66-67. In:  
鳥取県のすぐれた自然 (動物).
  25. 小林一彦 (1993) クロジ. pp. 70-71. In: 鳥取  
県のすぐれた自然 (動物).
  26. 小林一彦 (2002) コノハズク. p. 60. In: レッドデー  
タブックとっとり (動物).
  27. 小林一彦 (2002) ビンズイ. pp. 65-66. In: レッド  
データブックとっとり (動物).
  28. 小林一彦 (2002) エゾムシクイ. p. 72. In: レッドデー  
タブックとっとり (動物).
  29. 小林一彦 (2002) ホシガラス. p. 77. In: レッドデー  
タブックとっとり (動物).
  30. 増田裕子 (2002) ミコアイサ. p. 46. In: レッドデー  
タブックとっとり (動物).
  31. 増田裕子 (2002) ワシカモメ. p. 57. In: レッドデー  
タブックとっとり (動物).
  32. 三宅哲郎 (2009) 湖山池のオオワシとオジロワシ. 銀  
杏羽, 102: 11.
  33. 森本 栄・飯田知彦 (1992) クマタカの生態と保護  
について. Strix, 11: 59-90.
  34. (財) 中海水鳥国際交流基金財団 (2005) 平成16年  
度米子水鳥公園事業報告書, 162 pp.
  35. (財) 中海水鳥国際交流基金財団 (2006) 平成17年  
度米子水鳥公園事業報告書, pp. 14-19.
  36. (財) 中海水鳥国際交流基金財団 (2007) 平成18年  
度米子水鳥公園事業報告書, pp. 12-22.
  37. (財) 中海水鳥国際交流基金財団 (2008) 平成19年  
度米子水鳥公園事業報告書, pp. 15-20.
  38. (財) 中海水鳥国際交流基金財団 (2009) 平成20年  
度米子水鳥公園事業報告書, pp. 17-23.
  39. 日本野鳥の会広島県支部 (編) (2002) ひろしま野鳥  
図鑑. 増補改訂版. 中国新聞社 (広島市), 267 pp.
  40. 日本野鳥の会鳥取県支部 (編) (1997) 鳥取県のオン  
ドリ. 県下の生息状況調査報告. (財) 日本野鳥の会鳥  
取県支部, 97 pp.
  41. 重田芳夫 (1974) 東中国山地のイヌワシ. pp. 106-  
140. In: 氷ノ山・後山・那岐山国定公園三県協議会  
(編) 東中国山地自然環境調査報告. 兵庫県・岡山県・  
鳥取県, 310 pp.
  42. 塩村 功 (1983) 鳥取のイヌワシ. *Aquila chrysaetos*  
(日本イヌワシ研究会機関紙), 1: 20-25.
  43. 塩村 功 (1987) 鳥取県におけるイヌワシ生息の現  
況と2, 3の生態観察. *Aquila chrysaetos* (日本イヌ  
ワシ研究会機関紙), 5.
  44. 田村昭夫 (2002) ヨシガモ. p. 44. In: レッドデー  
タブックとっとり (動物).
  45. 田村昭夫 (2002) シロカモメ. p. 57. In: レッドデー  
タブックとっとり (動物).



ータブックとっとり (動物).

46. 鳥取県農林水産部造林課 (編) (1980) 鳥取県の野鳥. 鳥取県, 103 pp.
47. 鳥取県農林水産部森林保全課 (編) (2003) 第57回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」記念誌. とっとりの野鳥. 鳥取県農林水産部森林保全課, 137 pp.
48. 安田亘之 (1993) マガン. pp. 24–25. In: 鳥取県のすぐれた自然 (動物).
49. 安田恒之 (1993) クマタカ. pp. 44–45. In: 鳥取県のすぐれた自然 (動物).
50. 安田恒之 (1993) イヌワシ. pp. 46–47. In: 鳥取県のすぐれた自然 (動物).
51. 安田亘之 (1993) ホシガラス. pp. 72–73. In: 鳥取県のすぐれた自然 (動物).
52. 吉田良平 (2008) 東郷湖のヒシクイ・カリガネ. 銀杏羽, 97: 9.